

現在の報道機関では、23号のホームレスについての特集は、できないでしょうね。この記事がつけられ、販売員を通じて私たちのところへ届けられるのは、貴重なシステムですね。
(田中恵子/59歳/塾講師/淡路市)

ニューヨークの 社会復帰の施設で

ニューヨークでボランティアをしたい人達に、活動支援、斡旋をしている日本人によるNPO団体「NY de Volunteer (ニューヨークでボランティア)」を通じて、「パウイー・ミッション」の一日体験ボランティアに参加した。

この「パウイー・ミッション」は1879年に設立されたキリスト教系の団体で、ニューヨークでホームレスの人達に、聖書の教えに基づいた精神的な支援及び衣食住を含む社会復帰プログラムを提供し、彼らの自立を支援している。今回訪問したのは、ニューヨーク市内で3カ所ある施設のうち、今や高級ブティックが立ち並ぶ若者の街となった、パウイー通りの施設だった。



若い人が多いように見えた。9ヶ月の入居の間に、コンピューター等の仕事に必要なスキルを身につけ、就職し、自立していけるようプログラムが組まれている。昨年は56人の入居者が無事ここを卒業していった。



引率者の説明の後、まず地下において寄付された衣料品の整理を手伝う。全国から送られて来たシャツやセーター、スーツ等、種類やサイズ別にハンガーにかけていく。就職の面接の時に着るスーツが重宝されるそうだ。時には高級テイラー製のタキシードが見つかり、仲間のうちから歓声が上がると、次に1階の食堂で、ここに入居者と共にランチを取る。そしてその後、入居者の案内で施設を見学する。

この施設で一番重要で、入居者達が一番長く過ごすという部屋に案内された。それは祈りの場所なのだそうだ。彼らはここで、神と自分とを深く見つめ、施設を出てからの生活を正しいものにしてしまうと、決意するのだそうだ。きめ細

その後再び1階の食堂で、路上生活者達に提供される食事を配膳する。ちょうどカナダから高校生から高校生ボランティアが参加しており、埋め尽くされたテーブルの間を縫うようにして、食事を運ぶサービスをしていた。食事を待つ人の間から、彼らのことを天使のようだとささやく声があふれた。



そうして、約5時間のボランティア活動は終わる。あつという間で、考える暇もないようだったが、再出発を目指す彼らの真摯な姿が印象に残る。救済ではなく、共にがんばろうの気持ちになれた。
(崔ちえ/38歳/自由業/ニューヨーク)

意見原稿・投稿コラム原稿の募集(編集部からのお願い)
「YOUR ISSUE」では、読者のご意見を募集しています。各号の特集テーマや他にもさまざまなテーマで投稿原稿(1000字以内)を募集します。今号の特集テーマにちなんで「1週間できること」などについてのご意見も寄せください。なお、お名前、年齢、職業、ご住所を明記の上、匿名希望の方はその旨もお書きください。掲載の方には図書券をお送りします。

この施設で一番重要で、入居者達が一番長く過ごすという部屋に案内された。それは祈りの場所なのだそうだ。彼らはここで、神と自分とを深く見つめ、施設を出てからの生活を正しいものにしてしまうと、決意するのだそうだ。きめ細